

上級弁論第一位

「いつまでも友達でいるために」
シュクロナ・ショディエヴァ（言語大学）

タジキスタンの人々は、日本という言葉聞いた時、どんなイメージを持つでしょうか。もちろん、すし、きものなどの日本の伝統文化と車や電気製品などのすぐれた技術だと思います。しかし、それだけではありません。

実は日本はタジキスタンの「昔からの友だち」であり、「新しい友だち」でもあります。日本は昔からタジキスタンを助けてくれました。そして、今も助けてくれています。日本とタジキスタン、この2つの国は遠い場所にあるのに、2つの国の人々の心は近いのです。

みなさん、タジキスタンと関係が深い日本人で「秋野豊さん」という方を知っていますか。秋野さんは「国際連合」の人で1998年にタジキスタンに来ました。彼は日本では、つくば大学の先生でしたが、タジキスタンでは政府の仕事をしていました。そして、外国の友だちといっしょにタジキスタンの平和のために努力しました。秋野さんは政府の仕事だけでなく、人々の先生としてみんなと仲がよくて、体が大きく力も強いので畑の仕事もしました。秋野さんは日本とタジキスタンの関係をよくするために、自分の人生をかけていました。しかし、残念ながらその年の7月、不幸な出来事で亡くなってしまいました。そのとき48歳でした。

みなさん、今度は私たちタジク人がお礼をする番だと思いませんか。私はこう思います。タジク人の中でも私たち日本語を知っている人にしかできないこと、ほかのタジク人にはできないことがあります。たとえば、私は言語大学を卒業したら、タジク語と日本語の辞書をつくりたいと思っています。そうすれば、日本語を勉強する人も増えるし、日本へ行く人も増えるでしょう。また、日本からタジキスタンに来る人も増えてくると思います。みなさんも、日本とタジキスタン、この2つの国の関係をもっとよくするために、秋野さんがしてきたことと同じことをしませんか。自分の国のためだけではなく、他の国のために何かをしませんか。

私たちは、昔の人がしたことと同じことをする必要はありません。私たちがしなければならないのは、一生懸命がんばって、日本語だけでなく日本の文化ややり方をよく学んでタジク人に伝えることです。タジキスタンと日本は「昔からの友だち」で「新しい友だち」だけでなく「いつまでも友だち」になれるようにがんばりましょう。